

市の台所事情

財政課財政係
☎0824-73-1129

持続可能な財政運営プランを策定



貯金も底をついてきた

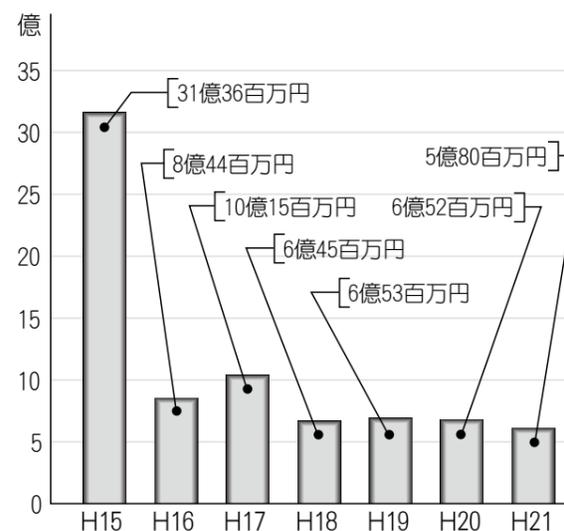
地方交付税などの削減や市民税などの税収入の減少により、財源が不足するという非常に厳しい状況の中、少子高齢化への対応や地域経済の活性化など、新たなまちづくりを推進し、諸課題の克服に取り組んでまいりました。

また、公共施設の維持管理、上下水道やごみ・し尿処理などの生活に欠かすことのできない事業を行い、その経費に市の実質負担となる

一般財源を充ててきました。その結果、一般財源が不足しています。

そこで、基金(貯金)を取り崩しながら、地域経済の回復を待ち、歩み続けてきました。地域経済はなかなか好転せず、平成15年度に31.4億円あった基金も、平成18年度では6.5億円と底をつきかけており、現状のまま財政を維持して行くことが困難になってきました。

財政調整基金(貯金)残高の推移



※平成18年度以降は見込額

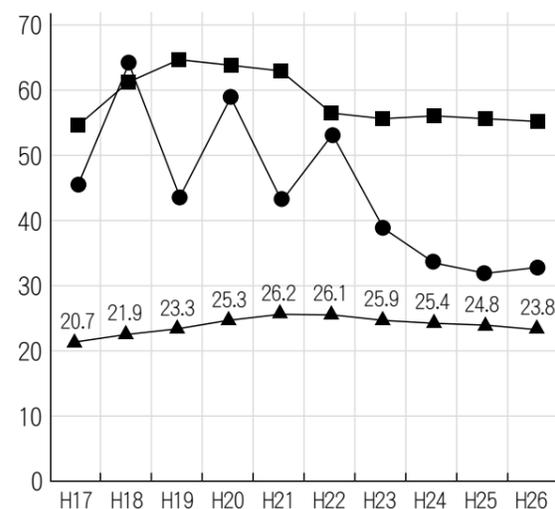
このままでは多額の累積赤字

借金返済額が歳出に占める実質的な割合を示し、財政の指標となる実質公債費比率は、平成21年度の26.2%(25.0%以上になると、一部の借金が制限されます。)をピークに、なだらかに減少していきまます。今後は、借入額が、返済額を上回らないよう借金が増えないよう、財政運営を行っていきます。借金の返済期間が長く、すでに借入れている返済がなかなか終わらないため、厳しい状況は続きます。

今後の財政運営の目安として、全く収入の増収努力や支出の削減

減を行わないと仮定し試算すると、表①のような推計となります。この結果、市税や地方交付税など収入の減少、今後の高齢化社会の進行に伴う社会保障費の増大などにより、一層厳しい財政見通しとなります。赤字額は、平成20年度に16.2億円をピークに達し、平成21年度以降は、公債費(借金の返済額)の減少などにより減少傾向となりますが、このままでは、慢性的な赤字経営が続き、累積赤字が多額となり、財政破綻となりかねません。

借金の借入額と返済額の推移と実質公債費比率



● 借入額(億円)
■ 返済額(億円)
▲ 実質公債費比率(%)

平成23年度に黒字見込み

庄原市では、財政破綻を回避し、限られた予算のなかで安定的なサービスが行えるよう、「持続可能な財政運営プラン」を策定しました。このプランでは、歳入確保による効果額、歳出削減による効果額を具体的にまとめ、平成19年度は、収入の確保05億円(市税収納率の向上、公共料金の見直しなど)や経費の削減10.6億円(施設管理経費の削減など)3.7億円、補助金の見直し1.6億円や人件費削減4.3億円など)を行います。また、平成19年度以降も、これらの取り組みを継続していきます。

表① プランによる効果額を反映させた財政推計(見通し) 単位は億円で、▲は赤字

	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
単年度収支	▲14.8	▲16.2	▲12.6	▲13.0	▲9.5	▲8.6	▲6.0	▲0.3	▲0.8
プランによる歳入確保 歳出削減効果額	11.1	11.2	11.8	9.9	9.9	9.8	8.0	8.0	8.0
差引額	▲3.7	▲5.0	▲0.8	▲3.1	0.4	1.2	2.0	7.7	7.2

赤字額は、庁舎建設基金(貯金)などの繰入により調整。黒字額は、基金への積立・借金の繰上償還(返済)へ充てる。
※単年度収支: その年度に見込まれる歳入(収入)と歳出(支出)の差

PR
はじめる!!
広告事業を

市の広報紙やホームページなどで あなたのお店をPRしませんか?



市の所有する印刷物やホームページ・公共施設などに民間事業者の皆さんの広告を掲載し、広告料収入を得る「広告事業」をスタートします。

この事業は、市の資産を民間事業者の皆さんの広告スペースとして有効に活用いただくことにより、市の新たな財源を確保するとともに、市民サービスの向上を図ることを目的としています。

ただし、掲載できる広告の内容は、市民の皆さんに不利益を与えない中立性のあるものとし、意見広告、政党・政治団体の広告、宗教関係の広告、個人の名刺広告などについては掲載できません。

事業の詳しい内容や掲載を希望される場合は、
財政課財政係(☎0824-73-1129)までお問い合わせください。